

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和4年1月18日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670105057
法人名	株式会社 メディユープ
事業所名	グループホーム おあしす坂之上
所在地	鹿児島県鹿児島市坂之上一丁目47番22号 (電話) 099-284-6636
自己評価作成日	令和3年12月11日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センター福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和4年1月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員は入居者様と楽しく生活する事を大切にしています。おひとりおひとりに合わせた活動を充実させて、日々の生活の中で共に楽しみながら入居者様と心の通う介護に努めています。敷地内には菜園があり、入居者様と職員で苗の買物や植え付け、収穫、調理をしてみんなで食べることで季節の変化を感じて頂いています。ボランティアの方々の協力を得ながら行事や、季節ごとの外出を企画しています。敬老会やクリスマス会にはご家族の方々にも参加を呼びかけ、入居者様とご家族が共に楽しんでいただけるように配慮しています。協力医療機関、訪問看護ステーションとの24時間の連携と協力体制のもと、入居者様の健康管理、急変時の対応をさせていただきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・年間の行事参加状況や日々の利用者状況をカメラに収めて、1年が終わると、五十音別に写真を選択し、「おあしすかるた会」に使用するかるたづくりをしている。かるた大会の時は、賞品と参加賞が出るので、利用者は張り切って参加している。かるたの写真に自分がいるので見つけるのも楽しみの一つになっている。職員もこの準備に前向きに取り組んでいる。年間の大きな恒例行事になりつつある。
- ・管理者は、常に利用者を主体に考え、利用者にとってどんなサービスを提供したら良いか職員で話し合っている。一人ひとりの利用者に沿ったサービスを取り入れ、利用者のやる気や喜びを引き出している。せかす言葉や「ちょっと待って」の制止する言葉を使わない介護に務めている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの理念を箇条書きにし、目につきやすい場所に掲げ、意識付けしている。職員は意識して地域の方に挨拶をして関わりを大切にしている。	理念は正面玄関の利用者や家族の目につきやすい所に掲示している。職員のネームの裏やパンフレットにも記載し、職員会議の時などに確認し振り返りをしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しており、資源回収にも協力したり、年に2回開催している防災訓練へ地域の方々の参加を呼びかけている。	地域住民の一員として、回覧板に事業所情報を提供し接点を持つ努力をしている。自治会に加入し資源回収に参加している。町内会の防災訓練等へ参加していたが、コロナ感染症予防のため現在は自粛している。中学生や専門学校の職場体験は受け入れている。	
3		○事業所の方を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	中学生の職場体験学習だけでなく、専門学校の職場体験やボランティアの受入れも行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>会議では介護活動の状況等を報告し意見や助言、要望等を出してもらい可能な限りその場で論議している。ご家族代表以外の方にも参加をお願いしている。</p>	<p>2ヶ月ごとに実施している。対面会議は自粛し、施設の近況についての資料を民生委員等とは訪問や事業所玄関で対面し話し合いをしている。家族等へは文書や電話等で意見交換をしている。意見や要望等があればその都度聞き取りをして運営に活かしている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>社会資源の活用や生活保護の受給者の処遇等の相談や対応を行い、運営推進会議等で長寿あんしんセンターともつながりを持ち、相談できるような関係づくりに取り組んでいる。</p>	<p>利用者についての相談等は電話でしたり、更新時は窓口に出向いたりしている。介護相談員の受け入れを年2回行っている。市主催のウェブ研修に参加している。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束廃止委員会を設置し、定期的開催している。身体拘束に抵触しそうな行為がないか確認している。身体拘束についての内部研修も職員が研修内容を考えて開催している。</p>	<p>高齢者の権利擁護・身体拘束廃止・虐待防止に関するマニュアルを基に、身体拘束廃止委員会を3ヶ月毎に開催している。毎月の職員会議の中でも必要時は課題としている。転落・滑落・離席等、職員の見守りの徹底方法を話し合い自由な暮らしを支えている。昼間の玄関の施錠はしていない。外出希望の利用者へは施設周辺の散歩に出かけることで対応している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止委員会も新たに設置し定期的に開催している。また内部研修の機会を増やし、虐待のない事業所作りに取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	内部研修で権利擁護について学ぶ機会を設けている。現在、成年後見人制度を利用されている方はいないが、今後いつでも活用出来るよう研修を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には時間を掛けて丁寧に説明を行っている。重要事項説明書や契約書に基づき、事業所の介護に関する考え方や活動、入退居の条件も含めた事業所としての対応可能な範囲や医療連携体制、看取りの指針などを詳しく説明し、理解、納得、同意を得た上で契約している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議や家族会を開催し、意見や要望をお聞きし、意見や苦情は管理者が責任を持って対応している。また、外部の相談窓口については契約時に説明し、重要事項説明書での掲示を行っている。	日々の支援の中で利用者の思いを把握している。家族は、面会の希望が多く、面会に来られた時に家族から意見や要望についての聞き取りをしている。毎月発行の便りで利用者の近況を報告し職員がひと言の書き込みをしている。面会を年末から人数や時間制限で実施できたが、現在は面会を自粛している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>毎月の職員会議や各ユニットのカンファレンス時に職員の意見、要望等を話し合っている。また、日々のコミュニケーションを大切にし職員同士が話しやすい職場環境作り、関係作りに努めている。</p>	<p>日常の業務の中で意見を聞いたり、毎月の職員会議やカンファレンスに管理者や法人本部より参加し、職員の意見や提案を聞いている。年度初めに各職員は自己目標を設定し、管理者は年に2回目標達成度や日頃の状況を聞いている。情報を共有することの大切さを理解し改善した事例がある。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>法人役員と法人内の2つのグループホーム・4つの小規模多機能型ホームの管理者で運営会議を月1回開催している。それを通して代表者も職場や職員の状況を把握し、職場環境や条件の整備を行っている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>行政主催の研修会やグループホーム連絡協議会の研修や社会福祉協議会主催の研修会に参加出来るようにしている。また、年間学習計画に基づいて内部研修の実施、資格取得も奨励している。昨年から各事業所の管理者が各事業所を訪問し、運営状況を確認する機会を設けている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム連絡協議会や医療生協主催の介護交流会や研修に参加し、情報交換や交流を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用相談があった時は、施設見学、面談などを行っている。見学の際に本人が施設の雰囲気に馴染めるようにお茶を飲んで過ごしてもらい信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始前にご家族と面談を行っている。要望や悩みを伺うことで生活状況を把握し、グループホームとしてどのような対応が出来るか検討している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用相談時に本人様やご家族の状況を把握し、利用開始までの一連の流れを説明している。空室がない場合や、相談内容がグループホームの役割と異なる場合は他の事業所のサービス利用の説明等を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物を干したり、たたんだり、お盆拭きや庭掃除などを楽しく自信を持って生活出来る様にひとりひとりに役割を持っていただいている。本人様からの情報だけを引き出すのではなく、職員も人となりを出して関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p>○本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>本人の要望等をお伝えし、ご家族にも対応して頂いて本人様の望む暮らしを支えている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>馴染みの方々への訪問を支援している。神社参りや海辺のドライブも行っている。</p>	<p>年末に短期間の家族面会を制限つきで実施していたが、現在、自粛している。電話の取次ぎを支援している。整容については訪問美容師を月1回依頼している。近隣周辺のドライブに出かけることもある。医師や看護師の訪問を行っている。</p>	
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>入居者様同士の関係性を把握し、座席の配置を工夫する事で楽しく生活出来る様にしている。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>サービスの利用が終了された方や他の事業所に移られた方でもお電話での相談に応じるなど、関係が途切れないように努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	定期的な聴き取りによる要望の把握に努めている。把握が困難な入居者様の場合はご家族からの情報を得て、職員間の話し合いの中で介護に反映させている。	日々の関わりの中で思いの把握に努めている。困難な場合は、しぐさや表情から汲み取り家族に確認するようにしている。体温測定が困難な利用者が歌が好きと聞き、音楽を流すことで体温測定ができるようになった。入浴時や部屋でゆっくりしている時に聞き取りを実施している。支援経過や介護記録の中に記入し、職員全体で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始前は本人様やご家族との面談で把握するようにしている。できるだけ本人様が生活されていた場所へ出向いて生活されていた環境を見るようにしている。入居後は日常の会話やご家族の面会時にお話を伺い把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様の生活リズムを把握出来る様に職員全員で取り組み、日々の言動・行動や表情からの気付きを大切にしている。入居者の出来ることを見出し、状態の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族には普段の生活の中での意思や思いを傾聴し介護計画に反映させている。本人様の生活に対する意向を伺い、カンファレンスでさらに検討し介護計画を作成している。	本人や家族の意向を把握し主治医、訪問看護師等の意見を聞き介護計画を作成している。カンファレンスや6ヶ月毎のモニタリングで見直し、現状に即した介護計画にしている。新規の場合は、2～3ヶ月で見直しをしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに基づき、日常の様子観察を行いながら水分量・食事・排泄などを把握している。また、行動や言動にも着目しながら記録に残し情報共有を図っている。それらをカンファレンスで見直し、介護計画に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	諸手続きの代行や、ご家族が同行出来ない時の受診の付き添いを行っている。季節に合わせた外出や個別の外出支援も行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に町内区長、民生委員、長寿あんしん相談センター職員にも参加してもらい、地域の情報や助言をもらっている。また、防犯や防災、入居者の離脱などでは交番や消防の協力を頂いて支援を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時や利用者の心身の状態に変化があった時はかかりつけ医に相談し、ご家族や入居者の意思を尊重して決定している。協力医療機関にかかりつけ医の変更をする場合は、前主治医からの情報提供や同意を得て変更を行っている。また、利用者の健康状態をかかりつけ医と事業所が連絡・相談出来る環境作りに努めている。	本人及び家族の希望を大切に施設の協力医療機関になっている。往診は月1回、訪問看護は週に2回の健康管理ができています。歯科の往診もある。受診の結果は家族へ連絡している。24時間医療連携体制が整っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>職員は生活の中で気付いた変化を訪問看護師やホーム看護師に伝え相談している。入居者ひとりひとりが適切な受診や看護を受けられるよう支援している。ホーム看護師は担当者会議にも出席している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時は主治医・看護職員・ご家族との連携を密に取り対応している。管理者や職員が面会に行き、入院中も利用者が安心感を持ち、早期に退院出来るよう支援している。退院前はカンファレンスに参加し、退院後も安心して生活が出来るようケアについて助言を頂いている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居時に終末期について簡単な話をしている。また主治医に相談しながら、看取りに入る前の段階で病状説明を受けられる機会を作っている。</p>	<p>入居時に重度化や終末期について説明し同意を得ている。状態の変化に応じて医師から説明し話し合いをしている。家族の訪問や宿泊も許可し、家族と協力体制で支援に取り組んでいる。医療機関か施設かを選択することになる。看取りについての事例がある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>定期的に内部研修で緊急時の対応方法や蘇生法の研修を行っている。対処方法や連絡先を分かりやすい場所に掲示している。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>消防署の協力を得て、避難経路の確認・非難誘導の方法、消火器の取扱い・通報訓練等を実施している。また、自主訓練も実施している。避難経路や手順を掲示し、災害に備えた非常食も備蓄している。地域の協力体制については運営推進会議で町内区長や民生委員に協力をお願いし、防災訓練前に地域の方々の参加を呼び掛けている。</p>	<p>年に2回防災訓練を実施している。1回は消防署の立ち合いで、1回は防火設備会社の協力で自主訓練を実施している。2階の利用者の避難は消防署の意見等を参考に検討している。施設内に避難経路や手順を掲示している。備蓄は約3日分、米・水・レトルト食品等で、訓練実施1週間前に近隣住民に説明し協力を得るようになっている。区長や民生委員の協力を得ている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>内部研修で言葉使い・態度・身だしなみに重点をおいて学習し実践している。個人情報の取り扱いについては内部研修等で個人情報保護について学び、個人情報の保護の徹底に努めている。</p>	<p>利用者には、苗字で呼ぶことを基本としているが、本人や家族の希望があれば名前での呼びかけも実施している。トイレへの誘導時等はプライバシーを傷つけないように注意し、申し送り時も部屋番号で報告をする等、個人情報について、責任ある行動を徹底している。</p>	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>生活場面において今どこで過ごしたいのか確認をしてから誘導している。誕生日にはリクエストされたメニューにしたり、外出を企画する際はどこにいきたいかなどを伺い、入居者の希望を大切にしている。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>1日の日課はあるが、あくまで目安としひとりひとりのペースや希望、その日の体調や気分などによって食事時間や入浴など可能な限り柔軟に対応している。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している</p>	<p>ひとりひとりの生活習慣や好みで自己表現が出来る様に支援している。必要に応じ声かけして身だしなみを整えている。訪問理美容の際は、出来るだけ本人様から希望を聞きながらカットやパーマをしてもらっている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の盛付けや下膳、食器洗いやお盆拭きなどをしていただいている。献立を作る際は、食べたい物がないか伺い、食欲をそめるような声掛けや雰囲気作りに努めている。	献立は栄養士が確認し、調理は職員が担当している。食事形態に沿って提供し、自助具を使用している。座席の配慮や音楽を流しゆっくり食べる支援もしている。誕生会を行い好きな献立を聞き、手づくりのケーキを提供している。行事食も楽しみとなっている。職員と一緒に手伝いもしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	協力医療機関の管理栄養士の指導を受け、バランスの取れた献立を作成し提供している。水分や食事の摂取量をチェック表にして職員が把握出来る様にしてしている。水分摂取量の少ない入居者には個別に好きな飲み物を提供している。本人様の状態に適したコップや器で摂取出来るよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの声かけや介助を行い、口腔内の保清努めている。歯磨きやうがい が困難な入居者には口腔ケア用のウェットティッシュで清拭している。必要に応じて歯科受診を検討し、対応している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレの回数の少ない方にはお茶や入浴前などにトイレに誘導し、排泄の機会を作るよう努めた。またトイレを汚される方には座って排泄して頂くよう声を掛け習慣にさせていただいた。	それぞれの排泄パターンを把握し誘導している。トイレ誘導の声掛けで本人を傷つけないように配慮している。足の浮腫みで足浴をしていた利用者が足浴の前にトイレをすることが習慣となり、排泄の失敗を防ぐことができるようになった事例がある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医療職と排便状況を確認し、運動や乳製品などで便秘予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	週に2～3回午前中を基本としているが、入浴拒否や状況により変更している。同性介護で1対1の入浴支援をしている。入浴剤を使用し音楽を流しながら実施している。音楽や入浴剤、ジェットバスでリラックスできる工夫をしている。シャワー浴、浴槽に入っでの入浴等利用者の希望に応じて実施している。入浴の拒否がある場合は本人の意向を尊重し、日程を調整するなど、希望に沿った支援を実践している。	週に2～3回午前中を基本としているが、入浴拒否や状況により変更している。同性介護で1対1の入浴支援を行い、入浴剤を使用し音楽を流しながら実施している。ジェットバスでリラックスできる工夫もしている。シャワー浴も利用者の状況や希望に応じて実施している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	足浴をしたり、休む前はパジャマに着替えていただくことで気持ちよく眠れるよう支援している。個々に応じた居室の明かりや環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が内服薬の内容を把握出来る様に専用のファイルを作成し、薬の説明書を整理している。与薬時は必ず職員2人で名前の確認を行い直接手渡し、本人の前で名前と日付を確認している。毎食ごとに服薬内容を記載したカードを作成し、随時確認出来る様にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>季節に合わせた創作活動や家事支援、畑作業など多岐に渡る支援が来ている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>ご家族の協力を得ながら外泊や外出出来る様支援している。気候や入居者様の希望を考慮しながら行事や外出を企画している。</p>	<p>日常的な外出は、敷地内の菜園畑や駐車場の散歩等の支援をしている。春には施設内に桜が咲くので花見をしたり、ベランダや玄関先で外気浴を楽しんでいる。近隣へドライブに出かけている。外出できない分、事業所内でのレクリエーションを多く取り入れ、気分転換を図る工夫をしている。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>金銭管理はご家族にお願いしており、必要時にはご家族の承諾を頂いて物品等購入している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>家族と電話で交流が図れる様支援している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清掃の徹底、空調や換気に気を付けると共に、毎月季節に合わせた貼り絵を作成し、季節の花をリビングに飾ることで居心地の良い空間作りに努めている。	玄関の横に長椅子を設置しくつろぎの場となっている。大きな窓際にソファを置き外の景色が眺められるようにしている。キッチン是对面式でお互いに顔が見え安心できる。リビングはテーブル3個設置、テレビ・新聞・生花・季節の壁画を作成し、コロナ対策で清潔、換気、消毒、温度管理を徹底している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席替えをしながら一人ひとりが過ごしやすい居場所作りをしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の協力を頂きながら、本人様の使い慣れた家具等を用意していただいたり、身体の状態に合わせた配置を行い居心地よく過ごせる様配慮している。	居室にはギャッチベッド、クローゼット、洗面台、エアコンを設置している。寝具、遺影、仏壇、家族写真、ぬいぐるみ、テレビ、ラジオ、時計、作品等の好みの物を持ち込み、馴染みの物が身近にあり落ちついた環境で居心地よく過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	分かりやすいように居室のドアの目印やトイレの表示をしている。廊下やトイレに手すりが設置されている。玄関横で外履きに履き替えられるようにベンチを設置している。トイレは自動で転倒消滅する。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない